

社会資源の 活用、連携・協働、開発

日本福祉大学

原田正樹

社会資源の活用と連携・協働

社会資源とは

○概念

- ・ニーズを充足するために(生活困窮者支援)用いられる、有形無形の資源である
- ・制度、機関、人材、資金、技術、知識等の総称。
- ・支援員のみが活用するものではなく、本人が活用できるように支援員は必要な社会資源を調整する役割も求められる。

○整理

- ・整備する地域単位、運営・設置の主体別、
フォーマル・インフォーマル

<前期資料から>

○フォーマルな社会資源

・制度化された社会資源

行政によるサービス、公的サービスを提供する民間組織によるサービス。

多様な社会保障制度等を知っておくこと。

・特徴

サービス適用に関する評価基準、利用手続き等が設定されている。安定した継続性あるサービス供給、専門的サービス供給が期待できる。

利用者に対する柔軟性が課題となる。

○インフォーマルな社会資源

・制度化されていない社会資源

家族による一時的なサポート、親戚、友人、知人、近隣の人、ボランティア、自治会等。

・特徴

利害関係を含まない愛情や善意を中心に成立、柔軟なサービス提供、ネットワークが容易。

継続性、安定性、専門的ノウハウが弱い。

○支援員は地域の社会資源を把握し、特徴を認識しつつ、長所・短所を補完する形で最大限活用する。本人も社会資源を認知し主体的、選択的に活用する事で自立生活につながる事が望ましい。

ソーシャルワークと「社会資源」

資源開発：石油・ガス、石炭、ウラン、地熱など、安定したエネルギー資源の確保のために開発をすること。

地域資源：当該地域の自然資源のほか、存在する特徴的なものや人的・歴史的なものも含めて地域資源とする。

社会資源：多くは「社会福祉の援助過程で用いられる資源」として使われてきた。

- ①人的資源(本人・家族・近隣・ボランティア・専門職など)、
- ②サービス(プログラム)、③情報、④空間(居場所・拠点)、
- ⑤財源、⑥制度(ソーシャルアクション)、⑦ネットワーク

Mary Richmond による社会資源

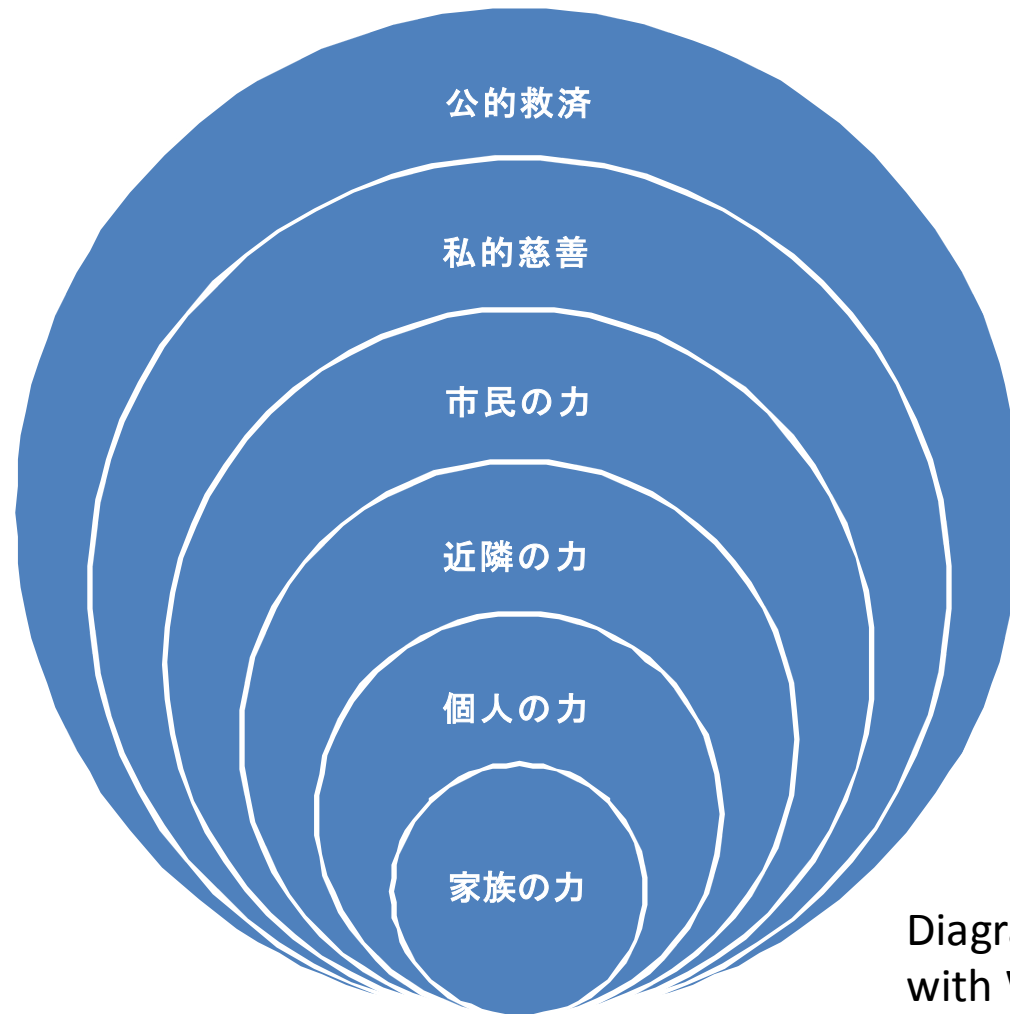


Diagram of Forces
with Which the Charity
Worker May Co-operate

生活困窮に関する「対社会」

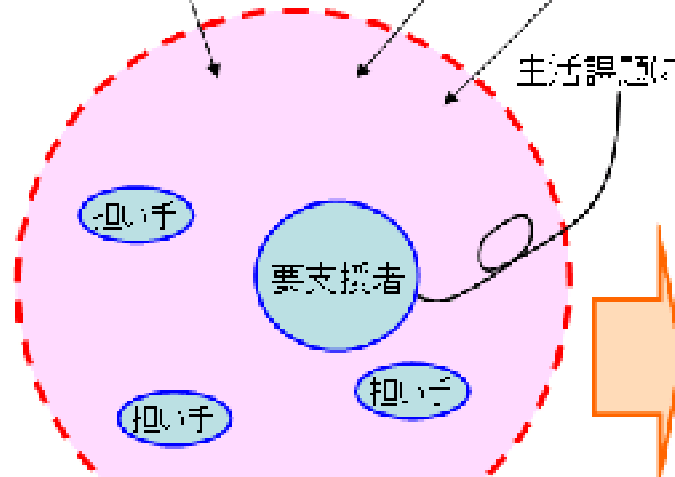
- 生活困窮という課題には、福祉分野のみならず、保健、雇用、文教、金融、住宅、産業、農林漁業など様々な分野が関係するものであり、国においては関係省庁が十分に連携し、自治体においても地域づくり、まちづくりの視点から、関係部局が連携して総合的に取り組むことが期待される。
- 対社会への創造型支援を行っていくための早期発見や見守りなどを可能とする地域社会づくりや社会資源の開発を行うことが必要である。

【社会保障審議会・特別部会報告】

地域における個別の支援と地域の福祉活動の運営のためのネットワーク

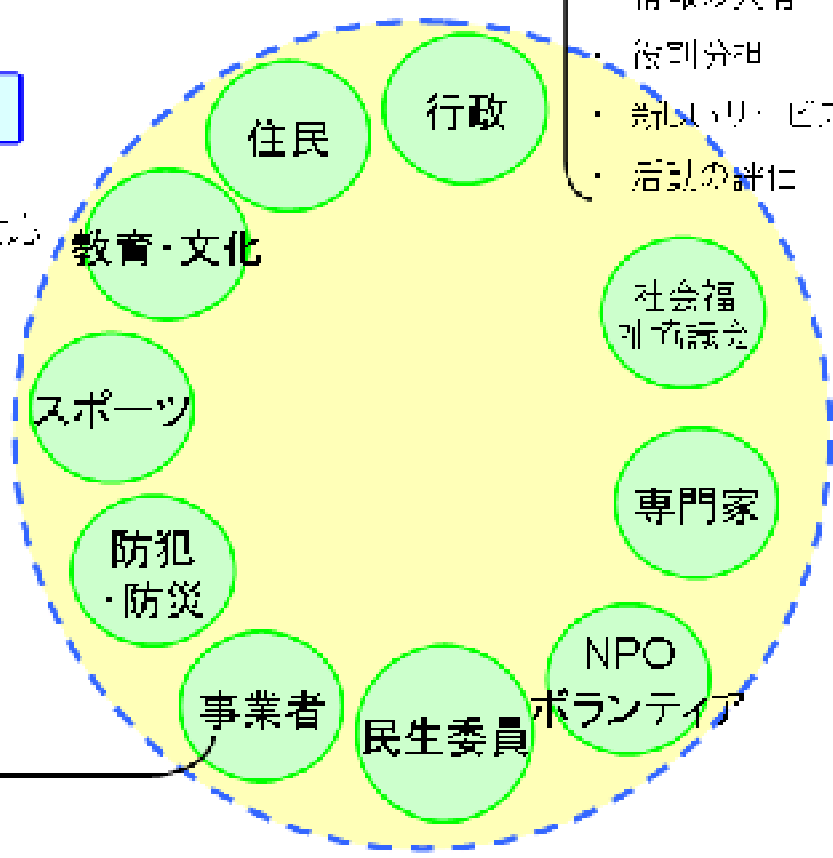
<要支援者ごとの支援会議>

- 隣人・友人
 - ボランティア
 - 福祉委員
 - 民生委員
 - NPO など
- 事業者
- 専門家



地域の要支援者を支える

<地域の福祉ネットワーク>



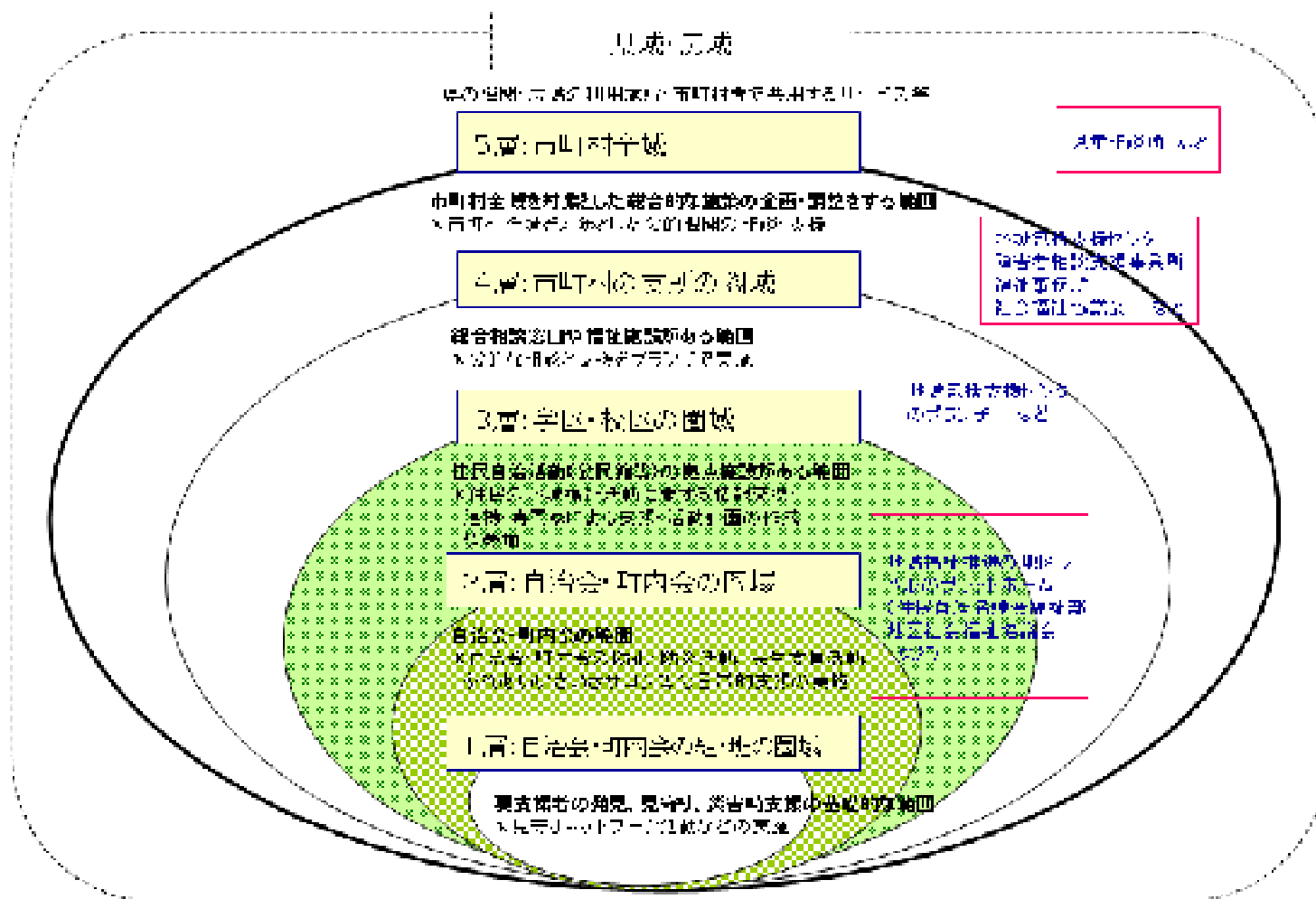
- ・ 地域の生活課題の発見
- ・ 課題への対応の協議
- ・ 活動の計画・実行
- ・ 活動拠点の管理
- ・ 情報の共有
- ・ 役割分担
- ・ 新しいサービスの開発
- ・ 活動の継承

地域福祉の
コーディネーター

地域空間を重層的にとらえる

重層的な圏域設定のイメージ

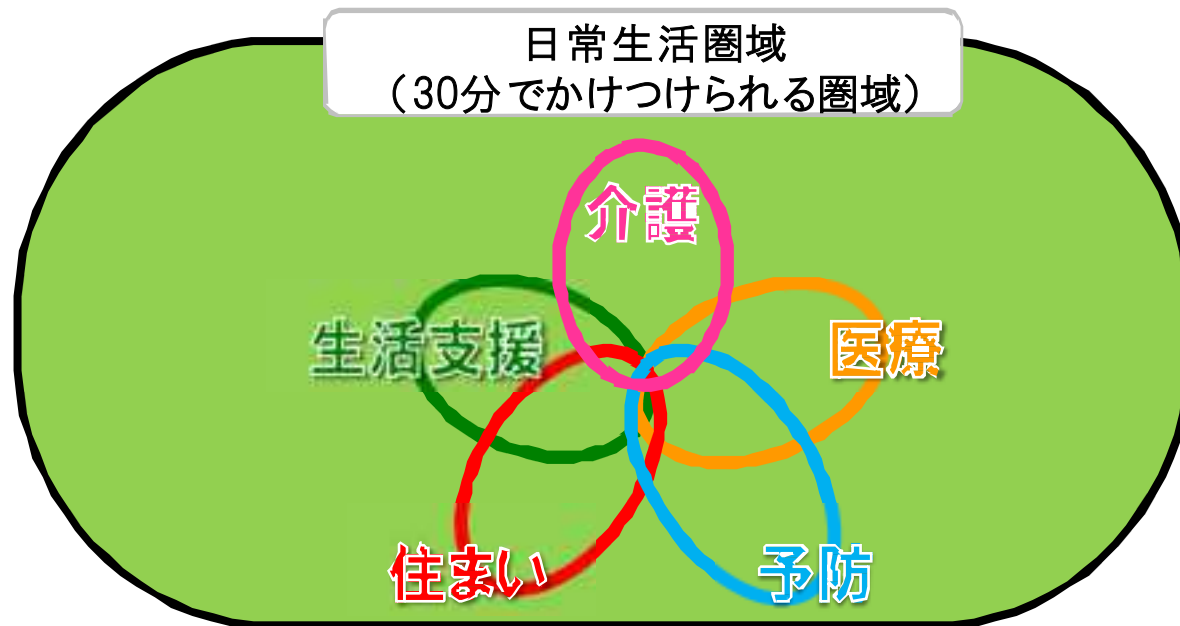
(ある自治体定数を)作成したのであり、地域により多様な設定もあり得る)



地域包括ケアシステム 2025年

- ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが日常生活の場（日常生活圏域）で適切に提供できるような地域での体制のこと。
- 日常生活圏域：おおむね30分以内で駆けつけられるような範囲 小学校区程度

地域包括ケアシステムについて



【地域包括ケアの5つの視点による取組み】地域包括ケアを実現するためには、次の5つの視点での取組みが包括的(利用者のニーズに応じた①～⑤の適切な組み合わせによるサービス提供)、継続的(入院、退院、在宅復帰を通じて切れ目ないサービス提供)に行われることが必須。

①医療との連携強化

・24時間対応の在宅医療、訪問看護やリハビリテーションの充実強化。

②介護サービスの充実強化

・特養などの介護拠点の緊急整備(平成21年度補正予算:3年間で16万人分確保)

・24時間対応の在宅サービスの強化

③予防の推進

・できる限り要介護状態とならないための予防の取組や自立支援型の介護の推進

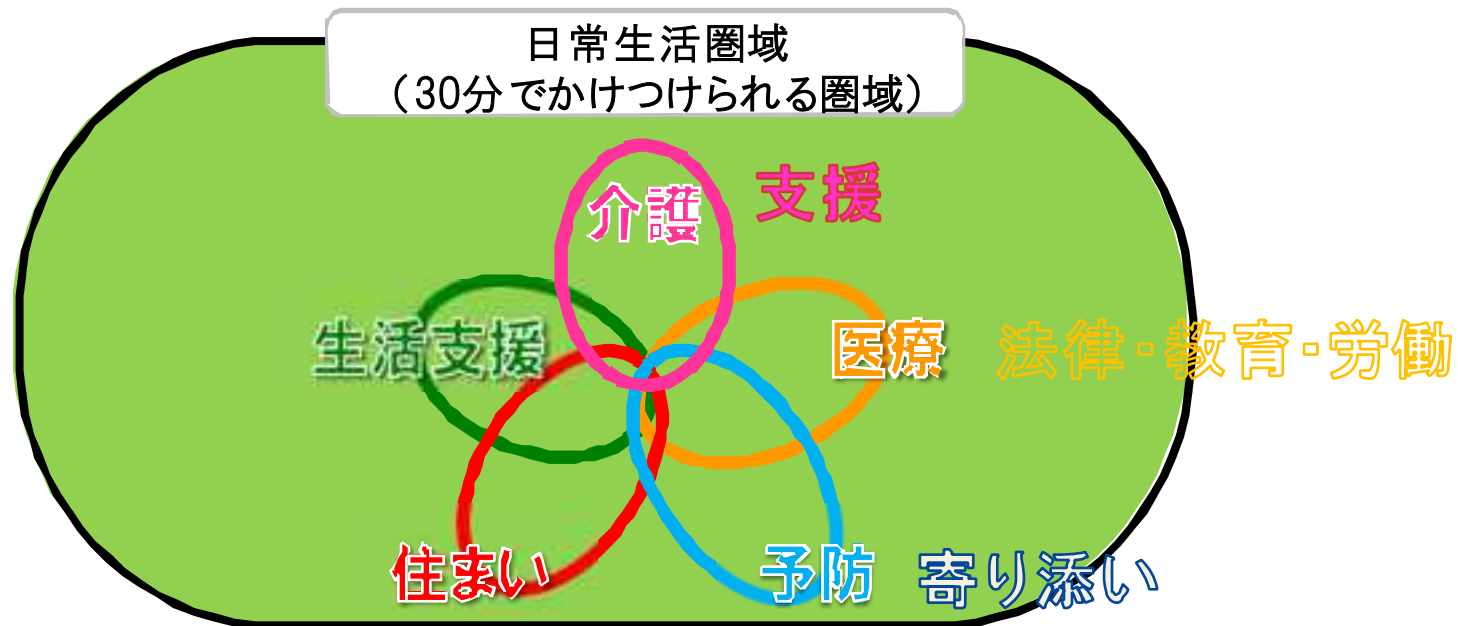
④見守り、配食、買い物など、多様な生活支援サービスの確保や権利擁護など

・一人暮らし、高齢夫婦のみ世帯の増加、認知症の増加を踏まえ、様々な生活支援(見守り、配食などの生活支援や財産管理などの権利擁護サービス)サービスを推進。

⑤高齢期になっても住み続けることのできるバリアフリーの高齢者住まいの整備(国交省)

・高齢者専用賃貸住宅と生活支援拠点の一体的整備、・持ち家のバリアフリー化の推進

地域包括ケアシステムについて



【地域包括ケアの5つの視点による取組み】地域包括ケアを実現するためには、次の5つの視点での取組みが包括的(利用者のニーズに応じた①～⑤の適切な組み合わせによるサービス提供)、継続的(入院、退院、在宅復帰を通じて切れ目ないサービス提供)に行われることが必須。

① 医療・法律・教育・労働との連携強化

・24時間対応のサービス。生活支援に必要な諸サービスとの連携。

② 支援サービスの充実強化

・多様な団体・組織、支援者による支援。参加と自立にむけた継続的・包括的なサービス。近隣住民との支えあい。

③ 予防や寄り添いの推進

・できる限り社会的な予防や寄り添いを通じた安心した自立支援・総合相談の推進

④ 見守り、配食、買い物など、多様な生活支援サービスの確保や権利擁護など

・一人暮らし、生活困窮状態、ひきこもりなどの増加を踏まえ、様々な生活支援(見守り、配食などの生活支援や財産管理、家計支援、学習支援などの権利擁護サービス)サービスを推進。

⑤ 住み続けることのできる住まいの整備

・住居と生活支援拠点の一体的整備、・持ち家のリバースモーゲージ制度などの検討

生活困窮支援と社会資源開発

「社会資源開発」を視野に入れた支援

断らない、逃げ出さない、言い訳をしない。

使えるものは何でも使う。無ければ創り出す。

もともと「制度の狭間にある人」を支援する以上、
「制度」に頼らない(頼れる制度がない)ことは
当たり前。社会資源開発の機能が重要。

そのための支援のネットワークをつくる。

プログラム、サービス、居場所・役割、システム、
ソーシャルアクション

ネットワーク構築のプロセス

問題解決型の組織化

問題把握 → 計画 → 実施 → 評価

組織化

問題共有型の組織化

問題把握 → 計画 → 実施 → 評価

組織化

ネットワーク構築の手法

- **地域組織化**

地域のなかに組織を構築していく。

活動が継続化するための会則、役割など。

活動のマンネリ化、形骸化が起きやすい。

- **プラットフォーム**

目的を明確にして、賛同した人が集合。

目的が達成した後は解散する。

活動のコーディネーターが重要。

中間的就労／コミュニティビジネス

- 商工会などとの連携

参考例

中山間地域での取り組み

ビジネスモデル／限界集落

障害のある人たちの取り組み

社会的起業／地場産業の商品化

ひきこもりの人たちの就労の場

秋田県藤里町／大阪府豊中市

若者サポートステーションなどの取り組み

愛知県半田市

『CSWと社会資源開発』CLC出版

社会資源開発を指向するコミュニティソーシャルワーク(社会資源開発の基本的視座)

「社会資源開発の出発点には2つの視点がある」

「CSW自身も、ひとつの社会資源としてとらえる」

地域自立生活支援における社会資源開発(個別支援を軸とした社会資源開発)

「生活に困っている人への支援は人間関係を育むこと」

「その人らしく生きたいという願いをカタチにする」

「CSWとして揺るがない価値観、立ち位置を示す」

社会資源開発の醍醐味(地域支援を軸とした社会資源開発)

「新規事業を立ち上げるだけが開発ではない」

「地域のなかで共感してくれる人、代弁してくる人を増やす」

「政治力を活用することも視野に入れる」

社会資源開発のコツ(社会資源開発のプロセス)

「相手のこと、地域のことを見極める」

「相手にとってのメリットや、必要性をきちんと説明できる」

「問題を社会化していくためには、マスコミが有効」

社会資源開発ができる組織のあり方(社会資源開発のマネジメント)

「社会資源を開発するためには、スクラップ・優先順位も必要」

「こちらの土俵にばかりのせよとしない」

「社会資源の開発は、まず自分の所属する組織の改革から」

社会資源開発にむけた(企画)

社会資源開発の企画の5w2h

Why. なぜ社会資源開発が必要なのか(目的)

Who. 誰が、誰に声をかけるのか(対象、人財)

Where. どこでつくるのか(場所・圏域)

When. いつまでにつくるのか(期限、過程)

What. 何をしていくのか(内容・プログラム)

How. どうやって運営していくのか(体制・運営)

How much 必要な経費等はどうするのか